

## 研修会に係る実践事例



動物の適正な飼育や動物愛護の心を培う体験活動の充実に向けた研修会を行っています。その際、学校担当獣医師から、動物飼育に関わる専門的な内容について指導・助言を受けています。



### 新宿区立東戸山小学校

#### 【実践の概要】

- 低学年の職員を中心に、日頃の飼育活動から気付いたことや疑問に思ったことを、助言していただく場面を設定できました。
- 授業の打合せや授業などで、学校担当獣医師が来校した際に意見交換を行い、飼育する上で留意点や飼育環境等について助言していただきました。
- 児童への研修では、獣医師の立場から児童に留意してほしいことやヤギの特徴から飼育の仕方についての指導を受けました。



学校担当獣医師との打合せの様子

#### 【教員の反応】

- 動物飼育活動の経験がある教員でも、「ヤギの飼育」については不安に感じることもありましたが、学校担当獣医師に確認することで安心して飼育活動に臨むことができました。
- 担当の教員だけでなく、他の教員にとっても動物飼育について知る機会を設けることができました。
- 飼育に携わる教職員や地域・保護者・ボランティアと学校担当獣医師との研修会を行ったことで、飼育方法についての不安なことについて助言を受けられ、また今後の望ましい飼育活動の在り方についても意見を交換することができました。



## 大田区立赤松小学校

### 【実践の概要】

○ 研修会を開催し、学校担当獣医師から以下の点について御講話いただきました。

① 学校で動物を飼育する意味

昔から生き物とともに生活をし、死を経験してきたからこそ今の社会があります。しかし、現代は、生き物にふれあう時間が少なく、死を経験する場も少ない。情操教育も含めて楽しみながらふれあう時間が必要です。

② 学校で飼育するのに向いている動物について

学校では、餌代がかからず、困った時に引き取ることができるような、飼育が楽な動物が向いています。また、寿命が長すぎず、短すぎないものがよい。モルモットは、学校飼育にとっても向いている動物です。

③ 飼育するに当たっての教員の準備

生態を知り、野生動物について事前に調べておく必要があります。事前に調べておくことで、環境教育も行うことができます。児童が自らすすんで飼育に取り組むことができるように工夫をしておく必要があります。



心音を聴く前の触れ合いの時間

### 【教員の反応】

○ 「担当の教員だけでなく、学校全体の先生方が動物飼育について知る機会を設けることができてよかった。」「専門の先生と連携を図ることで、動物飼育の必要性等視野を広げることができた。」等の声が聞かれました。



## 世田谷区立松原小学校

### 【実践の概要】

- 飼育委員会の活動をする際に、学校担当獣医師による児童や担当教員への指導を実施しました。
- 第1回は、ウサギの生態や世話の仕方について、学校担当獣医師から詳しく説明を受け、実際にウサギを触りながら気を付ける点について具体的な指導を受けました。
- 第2回は、第1回の指導を基に、飼育日誌の内容や、実際に世話を続けてみて感じたことなどを話し合う中から、今後の飼育において気を付けていくべきことについて整理しました。



ウサギの飼育について指導を受けている様子

### 【教員の反応】

- ウサギやイヌの特性を踏まえた飼育についての留意事項や、よりよい飼育の仕方について学ぶことができ、飼育委員会担当教員が具体的に見通しをもって、児童に指示を出せるようになりました。
- 昨年度の実践と比較しながら活動を進めることができました。保護者にも協力を要請し、活動を理解してもらえるよう働き掛けることができました。



## 青梅市立第四小学校

### 【実践の概要】

- 夏季休業期間は、日直の教員がチャボの餌と水を与えています。例年の夏や冬の寒暖差のある時期はチャボの容態が悪くなることがありました。
- 対応については、管理職や飼育担当教員や用務主事に委ねられていました。新しく異動してきた教職員についても学校で飼育しているという意識が十分といえませんでした。
- この機会に、学校で飼育するチャボは児童及び教職員を含めた学校全体で見守っていく環境を推進し実践していくことにしました。



講師の学校担当獣医師の先生方

### 【教員の反応】

- 飼育研修後に、職員作業の時間をとって飼育小屋の環境整備を全職員で行いました。
  - ・飼育小屋の地面の土の入れ替え（衛生的な飼育環境の保持）
  - ・宿木の設置
  - ・飼育小屋の網を網目の細かいものに交換（すすめ等の侵入を防止）
- チャボに対して全教職員が自覚をもって飼育するようになりました。チャボの体調に対して気を付けるようになり、早め早めに対応ができるようになりました。
- 研修を通して学んだ「チャボの習性や接し方」は、「チャボの嫌がる行為」「チャボの喜ぶ行為」の理解となり、そのまま学級の児童への指導に生かすことができました。
- 「生命尊重」などについての指導をするとき、身近にいるチャボを通して、人間と動物とのふれあいの大切さを知り、「自分を大切にすることの大切さ」や「友達や周囲にいる人々への感謝」等、道徳教育にもつなげています。



## 日野市立豊田小学校

### 【実践の概要】

- ヤギと触れ合う活動を行う低学年の教員と、直接ヤギの世話をする委員会活動の担当教員が、学校担当獣医師の作成したパワーポイントを通して「ヤギの生態」「ヤギの行動の特徴及び習性」を学びました。
- 昨年度、多摩動物公園のヤギの飼育担当の方から指導していただいた「ヤギの安全かつ衛生的な飼育」について振り返り、適切な飼育の仕方を改めて共通理解することができました。



学校担当獣医師による研修の様子

### 【教員の反応】

- 研修後、ヤギについての理解が深まり、低学年の担任が休み時間を利用して、子供たちをヤギ小屋へ連れて行き、ヤギと触れ合う機会が増えました。
- ヤギの特徴を理解する前までは、「ヤギの特徴が分からず、近付くのが怖い。」と言っていた教員から、「以前よりもヤギに対する恐怖心がなくなった」との声が聞かれるようになりました。
- これまで、ヤギの飼育に直接関わることがなかった教員が、学校担当獣医師による研修を行ったことで、安全な接し方や衛生的な飼育の仕方についての理解を深めることができました。
- 研修後、飼育委員会担当教員が、「今後、日々の飼育活動の中で、児童とともに積極的にヤギと触れ合いたい」と感想を述べていました。児童と直接関わる教師自身が、ヤギに興味をもち、動物飼育について理解を深めることが、動物愛護や生命尊重の大切さを学ばせていくことにつながると実感できる研修となりました。